

学長フォーラムに寄せて

柴田正良

金大創基 150 年記念事業準備委員長

昨年 10 月に京都四条の中国料理店で北京大前学長、許先生に出席をお願いしたのが、「アジア 5 大学学長フォーラム in 金沢」開催に踏み出した私たちの第一歩だった。フォーラムは、金大が、1862(文久2)年、現在の金沢市彦三町に開設された加賀藩種痘所に始まることを祝う、創基150年記念事業の一環として、今年の11月12日(土)に開催される。事業全体の意味を私どもはこう表現した。「古き濫觴(らんしょう)を尋ねて真理の水源にいたり、滴また創造の大海をめざす」。ちょうど今が節目となる教育と研究の旅が、時の大海原を未来へ漕ぎ渡っていくというイメージだ。

そのようなことをベトナム国家大ハノイの副学長に語ったのが、昨年11月。明けて今年の初めには、チェンマイ大学長に出席要請をするため、本学の櫻井副学長がタイに飛んだ。ソウル大が法人化を控えた過密スケジュールのせいで辞退のやむなきに至った後、参加を表明してくれた韓国・釜山大を8月に中村学長が訪問した。

このフォーラムの趣旨は、混沌とした過去のアジアから連帯と調和のアジアに向かって、大学が何をなすべきかを模索することである。金大のみならず日本にとって、今後アジアとの共生なしには真の飛躍はないだろう。

会場には県立能楽堂を選んだ。開会后、まず能「石橋(しゃつきょう)」の後段を上演する。この地の文化芸術の深みを紹介し、アジア4大学学長をぜひとも金沢ファンにしたいのである。